

婦女問題研究会と『現代婦女』（『時事新報』副刊）

—中国の1920年代初期における「節育」観—

前 山 加奈子

一

女性向け定期刊行物は、女性の手によって初めて1898年に世に出た。それは女子学校の校友誌を除くと大まかに三分される。ひとつは読者として想定される対象の教育・教養水準に合わせて、趣向・好みに沿って購読数を増やそうとする商業雑誌、二つ目は唱導する主義・理念を広く伝えようとするもの、そして3つ目は自らの心情や考えを紙面に載せて第三者に伝え、共感を得ようとするものである。近代中国においては、そのうち第三番目のものから始まった。女性が自らのおかれた状況を客観的に知り、家庭・社会・国家を視座に分析し始めたものである。そして次に男性との不平等な地位の改変を求め、ジェンダー規範を解消させるために、社会変革への期待と共に変革されるべき方向を示し、女性大衆に覚醒と奮起を呼びかけるものが登場した。商業雑誌に属するものは、一般女性の識字率との関連が深かったために、中国社会に登場した時期は一番遅い¹⁾。

1920年代に入ると、その色分けは大きく変わった。そのもっとも大きな要因は「五・四」期の文化運動の中で、男性知識人が国家、民族、社会、家族との関連において女性問題に関心をもち始めたことにある。本論稿ではその変わっていく一過程を『現代婦女』を通してみることにする。

二

1910年代の女性向け定期刊行物は、女性たちが自らの意見や思いを主張するために、また女性たちが自らの声を反映させるために、多くが女性の手によって、或いは女子学校関係者によって刊行された。しかし1921年中国共産党（上海共産主義小組）が結成されると、女性問題や女性解放を主張する女性向けの主な定期刊行物は女性の手から男性知識人に移った。その中で婦女問題研究会を中心とするグループの執筆活動を追ってみる。

具体的な彼らの活動は次のような刊行物を通して見る事ができる。1921年8月、上海の『民国日報』副刊として出された『婦女評論』、同年12月に李達の実質的な責任編集によって出た上海中華女界聯合会の『婦女声』(半月刊)、22年9月に『現代婦女』、23年8月に『婦女評論』とこの『現代婦女』が合併した『婦女週報』、商務印書館の『婦女雑誌』の革新時期といわれるもの、そして商務印書館を解雇されそうになり、後実際に解雇された章錫琛や周建人たちが26年1月から編集刊行した『新女性』などである。『現代婦女』はこのような連鎖の中に位置づけられる刊行物であった。

『現代婦女』と合併した『婦女評論』は21年8月3日に陳望道²⁾によって創刊された。主な執筆者や訳者には陳望道はもとより、夏丏尊、茅盾、沈泽民、張近芬、陳德微、李達、邵力子、蔣鳳子、李宗武、章錫琛、Y.D. (李小峰³⁾)、程婉珍、周作人、沈玄廬、楊之華、王一知、王会悟、吳覺先、豐子愷などが並んでいる⁴⁾。これらのメンバーを見ると、同年7月23日に結成された中国共産党(上海共産主義小組)の誕生と関連があることが明らかである。また夏丏尊、茅盾、張近芬、陳德微、蔣鳳子、李宗武、程婉珍、周作人は次の三で詳述するが、翌22年8月に婦女問題研究会を組織した主要メンバーであった。

21年12月に創刊された『婦女声』の主な執筆者は、王劍虹、王会悟、王一知、陳独秀、李達、沈泽民などであった。『婦女声』は創刊後わずかに半年で22年6月に停刊されたが、翌月には婦女問題研究会が誕生し、9月には『現代婦女』が登場した。『現代婦女』の執筆者陣には、(陳)德微、(蔣)鳳子、高山・慨士・克士・開時・松三・嵩山(周建人)、(倪)文宙、吳覺農、章錫琛などの婦女問題研究会のメンバーはもちろんであるが、鏡・海(李漢俊⁵⁾)、江亢虎⁶⁾、瑟廬(陳友琴⁷⁾)などの名も並んでいる。詳細は文末に付けた『『現代婦女』執筆者順目録』を参照されたい。(なお他の『婦女週報』『婦女雑誌』『新女性』の執筆者陣に関しては本論稿では省略し、別稿で詳述する。) このように執筆者や訳者からも、以上の6種類の女性向け定期刊行物が一つの系列上に並べられる。

三

『現代婦女』は上海の新聞『時事新報』の副刊として、1922年9月6日から23年8月16日までに計34期⁸⁾、旬刊で出された。婦女問題研究会と中華節育研究社の共同刊行である。まずこの二者の存在を明らかにしてみたい。

婦女問題研究会は1922年7月、上海で発足した。発足を告げる雑誌の記事には次の17名⁹⁾のメンバーが記されている。李宗武、沈雁冰、呉覺農、周作人、周建人、胡愈之、胡学志、倪文宙、夏丏尊、張近芬、張梓生、章錫琛、陳德微、黃惟志、蔣鳳子、程婉珍、楊賢江。現時点では十分に調べることができたとはいえないが、20年代前後における各人の経歴と人間関係などは以下のとおりである。

李宗武：1895—1968，浙江省紹興出身，1920年瞿秋白等とソビエト・ロシアに行き，上海『時事新報』や北京『晨报』の特派員となる。ペンネームは(李)崇武，(李)仲武，佳，(李)季谷。日本に7，8年間遊学し，「上野図書館」に通って日本に関する多くの資料を集めるが，関東大震災に遭い，その5ヵ月後の24年に帰国する。後，北京大学などで教鞭をとる。集めた資料は震災によってすべて散失したが，日本の歴史，地理，政治軍備，外交，教育，金融，満蒙侵略政策を概観した『最近的日本（最近の日本）』（上海開明書店，1929年）や武者小路実篤の『人間的生活』（毛咏棠と共訳）を出す。

沈雁冰：1896—1981，浙江省桐郷出身，幼名は燕昌，本名は鴻，徳鴻，茅盾のペンネームで知られている文学者。ペンネームは他に徳洪，燕斌，謙冰，燕賓，仲芳，仲方，珠，玄，馮虚（女士），MDなどを使う。1916年に商務印書館に入り，20年から『小説月報』の編集主幹を勤める。女性問題に関する初めての論説は19年の「解放された女性と女性の解放」（『婦女雑誌』11月号掲載）。

呉覺農：1897—1989，浙江省上虞県出身。本名は榮堂，日本（1919年～22年）と英国に留学する。農業経済，茶業経済を専門とする一方，日本留学の経歴を生かして日本関連の執筆を多くし，侯厚培との共著『日本帝国主義対華経済侵略』（黎明書局）などがある。日本滞在中によく『婦女雑誌』への投稿をする¹⁰⁾。

周作人：1885（84？）—1967（68？），浙江省紹興出身，文学者，魯迅の弟。幼名は櫨（後に遐寿，寿），阿魁。号は起孟，啓明，また啓孟，仲密，子巖，子荣，（会稽女士）呉萍雲，碧羅（女士），知堂など多くのペンネームを使った。

周建人：1888—1984，浙江省紹興出身。幼名は嵩，松寿，字は喬峰など，ペンネームは高山，嵩山，長青，克士，松三，喬風，慨士など。魯迅の末弟。五・四期に北京大学で学び，21年から商務印書館で編集業務に従事する。生物学関係の著書が多い。

胡愈之：1896—1986，浙江省上虞県出身。幼名を学愚という。愈之はペンネーム，他に芋之，説難，蠢才，化魯，伏生など多数。1914年18歳で商務印書館に入るが，27年蒋介石の「四・一二」クーデター後難を避けるためにフランスへ遊学，31年に

帰国。「九・一八」(満州事変)後『世界知識』を創刊,また『東方雑誌』の編集主幹をつとめ,救国会の発足に参加する。

胡学志:1900—68(67?),浙江省上虞県出身。胡愈之の弟,よく使ったペンネームは胡仲持,他に宜閑,YDも使う。学志は幼名。上海の『新聞報』『商報』などの記者やシンガポールでの特約通信員を経て,28年から『申報』の国際版の主筆などを歴任する。31年に文学研究会に参加した。

倪文宙:詳細は不明。著書に『変態心理学概論』(教育叢書第82種,1925年)や張粹生との共編『東北事件』(上海長城書局,1931年),陳子明との共編『教育概論』(小学教員検定叢刊)などがある。

夏丏尊:1886—1946,浙江省上虞県出身。本名は夏鑄,字は勉旃,号は悶庵,平屋主人,釗哥は幼名。1901年秀才に合格,上海の中西学院などで学び,05年から07年に日本へ留学する。帰国後,後の浙江第一師範学校などで教鞭をとる一方,27年からは開明書店の編集所長となる。芥川龍之介など日本近代文学の翻訳や文章表現に関する書物を著す。

張近芬(女):詳細は不明。江蘇省嘉定(現在は上海市)出身。字は崇南。張嫻,CF⁽¹⁾(女士)の名で日本語の翻訳などの執筆活動をする。

張粹生:1892—1962,浙江省紹興出身。字は君朔,粹生はペンネーム。周建人と明道女子学校で同僚となり親交を結ぶ。22年に商務印書館に入り『東方雑誌』の編集に従事し,32年からは『申報』に移る。

陳德微:1893—?,浙江省浦江出身。字は待秋。杭州之江大学卒業後,教職を経て上海『民国日報』に入る。

黃惟志:1894—1968,浙江省上虞県出身。本名は黃幼雄,惟志は別名,他に微之。胡愈之の従兄弟。商務印書館の『東方雑誌』の編集に携わる。『申報月刊』の編集もする。

蔣鳳子(女):詳細は不明。与謝野晶子の著述を多く訳す。浙江省臨海台屬女子師範学校の『婦女半月刊』(1922年)を編集した。

程婉珍(女):詳細は不明。22年10月29日に発足した上海女権運動同盟会の主要発起メンバー。著書に『中国婦女運動的略史』『女子與勞工的關係』などがある。

楊賢江:1895—1931,浙江省余姚下塾橋出身。庚甫ともいい,字は英甫,英父。ペンネームには英夫,李浩吾,李膺揚,李誼,(葉)公朴,李康,YK,李服膺など多種類を使った。1921年に商務印書館に入り,22年から『学生雑誌』の事実上の編集責任者であった。27年に中国共産党の組織から日本に派遣され,29年帰国。浙江

省一師，南京師範大出身で，教育問題を中心とした論著や訳文が多数ある。31年東京で病死。

章錫琛：1889—1969，浙江省紹興出身。字は雪村。ペンネームに玉深を使う。紹興山会師範学堂を卒業。1912年に商務印書館に入り『東方雑誌』の編集に従事する。19年からは『婦女雑誌』の編集主幹となり，誌面の刷新を行ったが，革新的な女性観は保守的な経営陣には受け入れられず25年末解雇された。26年1月に『新女性』を創刊し，編集主幹になると同時に，開明書店を設立。上海の神州女子学校の教員も兼ねる。

以上の発起人の略歴から，次の共通する3点をあげることができる。まず出身地に関してだが，14名の男性はすべて浙江省出身で，しかも上虞出身5名，紹興出身5名という構成である。詳細不明の女性のうち蔣鳳子は勤務校から推察すると，浙江省出身の可能性が大きい。次に職業を見ると，編集者と教職者が殆どで，しかも編集者のうちでも商務印書館に勤務した者が，17名中7名いる。3点目には日本留学の経験者が多いことである。これらのことから婦女問題研究会が範囲の狭い交友関係と密接な人間関係によって作られたことが明らかになる。

婦女問題研究会の趣旨は，発足するとすぐに『婦女評論』『婦女雑誌¹²⁾』などに発表された。上述したように，これらの刊行物の発行にも婦女問題研究会の発起人の多くがすでにかかわっていたことは特記すべきであろう。

その趣旨として「婦女問題研究会の宣言」は，女性問題に関する学説の研究，国内外の女性の状況調査，女性問題に関する書籍の編集及び会報の発刊を行うことを明らかにしている。またその目的として「知識を増すため」，「改革の準備のため」，「発表或いは宣伝のため」を挙げる。

次に中華節育研究社であるが，『現代婦女』第6期（22年10月26日）に掲載された簡章によると，本部は蘇州にあり，産児制限の知識を研究，普及して一般社会にその「福利」を期することを趣旨とする。出版部は翻訳，編訳を行い，宣伝，疑問への解答，関連する書籍や雑誌の保管などを行う。通信部の職務は，質問への回答，書籍，用品，器具の購買或いは代理販売である。発起人にどのような人物がいたかは現時点では不明である。

この二者はそれぞれの趣旨のもとに合意して『現代婦女』の発刊に至ったのであるが，その合意とは何であったのだろうか。

四

『現代婦女』の「発刊の辞¹³⁾」には次のように記されている。「この小さな出版物」を発刊して「過去の女性を現代の女性にし、女性のもつべきあらゆるすべての自由を手に入れる手助けをする」。その「現代の女性とは自由な女性である。」「自由な女性」は、「過去のあらゆる抑圧の中から頭をもたげ、過去のあらゆる束縛の中から解放され、過去のあらゆる支配の中から独立して」、「女性のもつべきあらゆるすべての自由」すなわち「学習する自由、仕事をする自由、身心の自由、妻となり母となる自由」をもつ。そして女性たちは「自由な天空のなかで飛翔し、自由な大地で歌い踊る。」しかし「彼女たちの自由は決して彼女たち自身の一部というわけではなく、実は全世界の人類のため、全社会の文化のためである。彼女たちが自由になると、あらゆる人々もすべて真に自由になる」と格調高く宣言している。

この「発刊の辞」の特徴は、女性が自由になることとあらゆる人々の自由が関連付けられていること、女性の自由は全人類、全社会の文化のためだということである。それは「過ぎ去った時代では、人類の半数を占める女性たちが、男子からさまざまな抑圧、束縛、支配を受けて、狭い小さな天地に閉じ込められていた。」「そこでの結果は、世界の人類は半身不随となり、社会の文化は不完全なものとなり、歴史上の暗い陰影、醜悪な姿態は現在に至っても浄化されていない。これは何たる恥辱ではないか。」「この歴史上の恥辱をそそぎ、暗黒を光明に変え、醜悪を美麗に変え、残酷を仁愛に変えて、人類を健全な人類にし、文化を完全な文化にすること、これは現代女性の責任である！そうしてこそ過去の女性を現代の女性にすることができるのである！」という。女性たちが「現代の女性」となって、自由を手にして、全人類、全社会の文化の健全化を担うために、「われわれ婦女問題研究会と中華節育研究社という2団体は」その手助けをするものだという。

ここで注目されるべきことは、「現代女性の自由」に「身心の自由」と「妻になり母となる自由」を挙げたことであろう。現在の女性学での文言に置き換えるならば、身体の自由／魂の自由、セクシュアリティの自由、生む生まないの自由ということになる。女性の「不自由さ」をこのように具体的に表現し改変を求める要因は、五・四期の新文化運動のなかで婚姻・交際・教育などの自由を追求した次元からさらに一段上がった所に見出される。

五

1922年9月6日に創刊された『現代婦女』は、前述したように身体的自由／魂の自由、セクシュアリティの自由、生む生まない自由、つまり「性と生殖をめぐる自己決定の権利と自由」を「過去的女性」の手に入れさせて、「現代的女性」に変身させることであった。ここでは「自己決定の権利」というところまで文言が至っていないが、中国語の中では「権利」という言葉と概念が一般的には使われることが少ない。「自由」を行使できることが権利をもつことまで意味すると考えられる。この1922年は実にそのために記念すべき年となったが、それは『現代婦女』の創刊ゆえとするよりも、当年に訪中したマーガレット・サンガー¹⁴⁾、一般的にサンガー夫人といわれているアメリカのバース・コントロール（日本語では産児調節或いは産児制限、家族計画といい、中国語では、生育節制、節育という）運動¹⁵⁾の指導者の登場ゆえとするほうが实际的である。マーガレット・サンガーは1922年4月に中国を訪問し、北京や上海で節育の宣伝講演を行った。これが機となって中華節育研究社、北京産児制限研究会など生育節制を啓蒙・普及するグループが誕生する。『現代婦女』を婦女問題研究会と創刊することになった中華節育研究社はその一つであった。

サンガーは中国の男性知識人に大きな衝撃を与えた。『婦女評論』は山川菊枝の「労働婦女と解放」や女性の経済的な独立をテーマとする記事が多く、また創刊号から堺利彦の日本語訳から重訳したアメリカのワットの「女性中心説」を連載していたが、サンガーの訪中前後は誌面に生育節制の記事が目立つようになる。第37期（22年4月19日）には早速陳望道によって、「母性自決」（署名は記者）と「母性自決の先駆者サンガー夫人の旅程」（署名は暁風）が紹介され、第38期には夏丏尊の「生殖の節制」が掲載された。そして第39期と40期は「生育節制問題号」として特集を組むほどの勢いになった。暁風の「サンガー夫人の旅程」は日本の当局から入国を阻まれたサンガーが3月10日目的を達して入国し、改造社で講演したこと、彼女の主著の紹介などを記し、後日北京・上海を訪れることを報じている。筆者陳望道が日本から得た情報であろう。

特集号掲載の題目と執筆者／訳者は次のとおりである。（ ）内は本名。

[第39期（1922年5月3日）]

生育節制問題

暁風（＝陳望道）

- 生育節制の解釈 力子(=邵力子)
生育節制運動と中国 聚仁(=曹聚仁)
生育節制論 エリス著 衡石訳
生育節制問の過去・現在・将来 サンガー夫人著 佩韋(=沈雁冰)訳
生育節制の重要性と方法
4月30日上海職工教育館でのサンガー夫人談 平沙(=陳望道)記録
アメリカの生育節制会の原理と目的 マーガレット・サンガー 慕翰訳
生育節制運動の感発 瑰琦(=陳望道)

[第40期 (1922年5月10日)]

- 生育節制と恋愛 陳徳徴
「生育節制」の正価 氷(=沈雁冰)
生育節制問の過去・現在・将来(続き) サンガー夫人著 佩韋(=沈雁冰)訳
生育節制論(続き) エリス著 衡石訳

第41期以降もエリスの「生育節制論」やサンガーの「生育節制の過去・現在・将来」は連載が続き、さらに山川均の「生育節制と新マルサス主義」やサンガーの北京大学での講演記録が掲載される。しかし中心的なテーマは元の全般的な女性問題に戻った。「生育節制」問題は『現代婦女』に引き継がれたと考えられる。

『現代婦女』第1期(1922年9月6日)は、実に「発刊の辞」を忠実に実行している。瑟廬の「新良妻賢母主義」は副題が「妻となる自由と母となる自由」、泉の「産児制限」、海澄¹⁶⁾の「サンガー夫人の中国旅行観察談」の諸論稿を掲載したが、以下文末に付した目次を参照すると、各期に「生育節制」に関する論述が多く目につく。特に下記のような海外の著述の翻訳紹介が顕著である。

海訳「矯偽と節育 Willam Almonwolt著」(第5期)、白本訳「日本人の生育節制に対する見解 石本男爵夫人¹⁷⁾著」(6・7期)、海訳「節育と軍国主義『節育評論』十号より」(10期)、海訳「節育と戦争 英国の生育節制連合会長特来沙博士著」(12期)、白訳「婦女須知 アメリカのサンガー夫人著」(13・15・17・21期)、泉訳「無意識に生んだ子供の悲劇 サンガー夫人著」(20期)、泉訳「生育節制は人種を改良できるか Havelock Ellis著」(23・24・26期)

六

『現代婦女』は第34期で終刊となり、『婦女評論』と合併して『婦女週報』が創刊される。そこでは女性労働者の問題や女性の政治参加、また恋愛論や新しい性道德など、さらに広い女性問題が取り上げられるようになり、産児制限は中心テーマではなくなる。その意味では『現代婦女』が刊行された22年から23年の2年間は、伝統的な中国の「多子多福（子とは男児を意味する）」思想に対して新たな衝撃と問題を投げかけたといえよう¹⁸⁾。

また同様の言論活動は、『婦女雑誌』第8巻6号（1922年8月6日）の産児制限号においても見られ、その執筆は殆ど婦女問題研究会のメンバーによっている。

参考文献

- 陳玉堂編著『中国近現代人物名号大辞典』浙江古籍出版社、2005年
徐迺翔・欽鴻編『中国現代文学作者筆名録』湖南文芸出版社、1988年
編纂委員会編『上海婦女志』上海市專志系列叢刊、上海社会科学院出版社、2000年
編纂委員会編『上海通志』第10冊、上海人民出版社・上海社会科学院出版社、2005年
中共中央馬克思・恩格斯・列寧・斯大林著作編訳局研究室編『五四時期期刊紹介』第二集下冊、北京、生活・読書・新知三聯書店、1959年
鄭明以『陳望道伝』上海、復旦大学出版社、2005年
夏弘寧選編『夏丏尊散文訳文精選』北京、中国文联出版社、2003年
王利民『平屋主人—夏丏尊伝』杭州、浙江人民出版社、2005年
陳栄力『大道之行—胡愈之伝』杭州、浙江人民出版社、2005年
井上輝子・他編『岩波女性学事典』東京、岩波書店、2002年
坂元ひろ子『中国民族主義の神話 人種・身体・ジェンダー』東京、岩波書店、2004年
村田雄二郎編『『婦女雑誌』からみる近代中国女性』東京、研文出版、2005年

注

- 1) 拙論「女性定期刊行物全体からみた『婦女雑誌』—近現代中国のジェンダー文化を考える一助として」『『婦女雑誌』からみる近代中国女性』365-386ページ参照。
- 2) 陳望道：1890—1977、浙江省義烏出身。本名は参一、融ともいう。五・四期から望道、道をペンネームに使う。他に（陳）佛突、（陳）曉風、仁子、曉、陳雪帆、春華（女士）一介、平沙など多数。1915年日本に留学し、河上肇や山川均など初期のマルクス

主義者の思想に影響を受ける。19年6月帰国後、浙江第一師範で教鞭をとる。1920年に「共産党宣言」を翻訳出版した。上海共産主義小組に参加し、『新青年』をその機関誌としてマルクス主義の宣伝啓蒙を図る。34年には大衆語運動の発足に参加し、『太白』半月刊を編集する。上海大学、安徽大学、復旦大学などで教え、後長く復旦大学学長をつとめる。言語学を専門とした。

- 3) YD或いはY.D. のペンネームに関しては諸説あり、まだ特定できていない。
- 4) 前山加奈子・王宓「付録3『婦女評論』目録—著者順」『中国女性史研究』第9号、1999年11月、53-66ページ参照。
- 5) 李漢俊：1890—1927、湖北省潜工出身。本名は李書詩，書思。字は人傑，漢俊は号。1902年に兄の書誠と日本に留学し，20年に帰国。21年の上海共産主義小組のメンバー。
- 6) 江亢虎：1883—1954，江西省弋陽出身。本名紹銓，号は亢廬，洪水。亢虎はペンネーム。1901年に初めて日本へ政治視察で行き，1907年までに3回渡日する。欧州各国も回り，帰国後上海で社会主義研究会を組織した。バーベルの『社会主義と婦女』を訳す。
- 7) 陳友琴：1902—，安徽省南陵出身。本名は陳楚材，瑟廬は字。当時上海の務本女子中学で教鞭をとった。46年以降は杭州の之江大学などで教える。
- 8) 『五四時期期刊紹介』第二集下巻では第19期（1923年3月16日）までとなっているが，実際に『時事新報』を見ると，更に第34期まで続いたことがわかる。
- 9) 拙論「女性定期刊行物全体からみた『婦女雜誌』—近現代中国のジェンダー文化を考える一助として」375ページで16名としているが，章錫琛が漏れている。また張梓生を張競生としているのも誤りである。張競生：1888—1970，廣東饒平出身，元の名は公室，ペンネームは痴人，痴生，章独，小江平，「性」に関する言論活動が多いため性(学)博士といわれた。フランスに留学し21年に帰国後，北京大学哲学科の教授となり，性科学と性知識を公開で講義する。27年上海で「美的書店」を開いて性学関連の書籍を販売するが，当局によって閉店される。29年から再度フランスへ遊学，31年（33年？）帰国後は農村建設を行う。
- 10) 『大道之行 胡愈之伝』（陳榮力著，浙江人民出版社，2005年）65ページ 参照。
- 11) CFのペンネームは李小峰又は李小峰と張近芬の共同執筆名ともいわれる（『中国近現代人物名号大辞典』参照）。
- 12) 『婦女雜誌』は第8巻第8期の119-121ページに掲載。『婦女評論』には第52期（8月2日号）に掲載されている。
- 13) 第1期（1922年9月6日）に掲載，無署名。
- 14) マーガレット・サンガー（Margaret Sanger, 1879—1966）：巡回看護婦時代にスラム

街の女性たちが性的無知と科学的な避妊方法がないために望まない妊娠や出産で苦しむのを見て、避妊の権利と女性解放を関連付けた運動を始めた。初期には反体制派とも交わったが、後に優生学的な生殖管理に傾いた。

- 15) サンガーは避妊をバース・コントロール (birth control) と名づけ、その運動は、女性の意識改革のための教育運動と直接的、具体的な避妊方法の指導であった。
- 16) 海澄：本名不明、最も考えられる陳海澄(1892—1972)は1915—23の間日本留学中、訳著が多くあるが、英文か日本文か不明。艾青(1910—1996)は本名を蔣海澄というが、年齢から考えると不適當。劉半農(1891・1890—1934)は海を筆名に用いていて『名号辞典』では「準考」としているが、1920—25の間はフランス留学中である。
- 17) 石本男爵夫人：石本静枝、後の加藤シヅエ。戦前に産児調節運動で活躍し、サンガーと親交があった。
- 18) 坂元ひろ子は『中国民族主義の神話』のなかで「産児制限とサンガー効果」としてこの時期の知識人たちの言論活動を紹介している(113-126ページ)。

現代婦女（上海《時事新報》副刊） 期号順目錄			
第1期	1922年9月6日	發刊詞	*
第1期	1922年9月6日	新良妻賢母主義 為妻的自由和為母的自由	瑟廬
第1期	1922年9月6日	我的希望	郢
第1期	1922年9月6日	產兒制限	泉
第1期	1922年9月6日	雜誌 拳匪思想	始
第1期	1922年9月6日	雜誌 “禮文昭著之時”	始
第1期	1922年9月6日	雜誌 七去都是女子的“罪”嗎？	始
第1期	1922年9月6日	雜誌 “庶人不能有妾”	始
第1期	1922年9月6日	雜誌 “納徵之禮”	始
第1期	1922年9月6日	山額夫人之旅華觀察談	海澄
第2期	1922年9月16日	社評 席上珍的自殺	玉深
第2期	1922年9月16日	社評 勞動立法運動	玉深
第2期	1922年9月16日	農村的婦人問題	吳覺農
第2期	1922年9月16日	節育的本義	郢
第2期	1922年9月16日	關於愛的七個發問（譯自Peo san magazine）	泉
第2期	1922年9月16日	我對於扶蒼君結婚之感想	華超
第2期	1922年9月16日	回想	渠之
第2期	1922年9月16日	雜誌 “三投”	友鸞
第2期	1922年9月16日	雜誌 同情心	友鸞
第2期	1922年9月16日	雜誌 “女士”和“她”	友鸞
第2期	1922年9月16日	雜誌 “為甚麼不開男禁”？	友鸞
第2期	1922年9月16日	雜誌 “非男子之福也！”	友鸞
第2期	1922年9月16日	雜誌 “社交”和“戀愛”	友鸞
第3期	1922年9月26日	社評 女子工業進德會	玉深
第3期	1922年9月26日	社評 上海一部分的婦女，已在籌備組織女權運動同盟會的支部了	玉深
第3期	1922年9月26日	婦女參政運動的重要	高山
第3期	1922年9月26日	婦女參政運動 英國福綏特女士著	屯民 譯
第3期	1922年9月26日	兩首悼亡詩的觀察	文宙
第3期	1922年9月26日	遣悲懷三首	元稹
第3期	1922年9月26日	一夫一婦制必要的背景（譯美國Birthcontrol Review）胡克夫人著	海 譯
第3期	1922年9月26日	詩 憶李安娜	*
第3期	1922年9月26日	關於節制生育的四個問答	白本
第3期	1922年9月26日	雜誌 試驗結婚	*
第3期	1922年9月26日	雜誌 生殖之神經	*
第3期	1922年9月26日	雜誌 淫與盜	*

第4期	1922年10月6日	社評	九月二十七日“時報”北京電傳教部編訂男女同校規則,	玉深
第4期	1922年10月6日	社評	基督教婦女節制會的籌備撫育工兒院	玉深
第4期	1922年10月6日	社評	紹屬旅滬同鄉會的拒絕女子入會	玉深
第4期	1922年10月6日	父母的責任		郢
第4期	1922年10月6日	婦女參政運動 英國福綏特女士著		屯民 譯
第4期	1922年10月6日	一個小小的統計		渠之
第4期	1922年10月6日	生計艱難的原因		泉
第4期	1922年10月6日	我的思想變遷史		王丹軒女士
第4期	1922年10月6日	雜譚	片面貞操	始
第4期	1922年10月6日	雜譚	戀愛與社交	*
第4期	1922年10月6日	雜譚	社交的意義	始
第4期	1922年10月6日	雜譚	戀愛的訓練	*
第5期	1922年10月16日	婦女運動問題		周梁令嫻
第5期	1922年10月16日	婦女參政運動 英國福綏特女士著		屯民 譯
第5期	1922年10月16日	矯偽與節育 Willam Almonwolt著		海 譯
第5期	1922年10月16日	婦女職工與生育		雲
第5期	1922年10月16日	浪漫談		T.W
第5期	1922年10月16日	忤逆的娼妓與孝順的娼妓		拙妮
第5期	1922年10月16日	雜譚	男女之嫌	始
第5期	1922年10月16日	雜譚	遠嫌與亂婚	始
第6期	1922年10月26日	社評	(二則)	玉深
第6期	1922年10月26日	社評	(一則)	郢
第6期	1922年10月26日	二重道德的免除難		高山
第6期	1922年10月26日	婦女參政運動(續) 英國福綏特女士著		屯民 譯
第6期	1922年10月26日	日人對於生育節制的見解 日本石本男爵夫人著		白本 譯
第6期	1922年10月26日	送敦祐赴北京		鳳子
第6期	1922年10月26日	浪漫談(續)		T.W
第6期	1922年10月26日	中華節育研究社簡章		記者
第6期	1922年10月26日	雜譚		渠
第7期	1922年11月6日	社評一		玉深
第7期	1922年11月6日	社評二		肅宜
第7期	1922年11月6日	女權運動的基礎(在上海女權運動同盟會的演說)		章錫琛
第7期	1922年11月6日	婦女參政運動(續) 英國福綏特女士著		屯民 譯
第7期	1922年11月6日	日人對於生育節制的見解(續前) 日本石本男爵夫人著		白本 譯
第7期	1922年11月6日	雜譚	貞女	始
第7期	1922年11月6日	雜譚	淫亂	始

第7期	1922年11月6日	雜譚	自由婚姻	始
第7期	1922年11月6日	雜譚	古訓	始
第7期	1922年11月6日	附錄	北京產兒制限研究會宣言書	*
第7期	1922年11月6日	附錄	陽女子參政協進會宣言	*
第7期	1922年11月6日	介紹新刊		*
第7期	1922年11月6日	徵求投稿		*
第8期	1922年11月16日	告“女性日本人”記者花圃女士		YD
第8期	1922年11月16日	兩性教育的先決問題		劍三
第8期	1922年11月16日	結婚的三種目的 日本與謝野晶子著		VT
第8期	1922年11月16日	俄國革命祖母勃萊希柯夫斯基傳		喆生
第8期	1922年11月16日	讀過“壬戌周刊”以後		溯生
第9期	1922年11月26日	女子參政團體與羅案		玉深
第9期	1922年11月26日	對於工兒院創辦諸君的貢獻		易
第9期	1922年11月26日	兩性教育的先決問題（續）		劍三
第9期	1922年11月26日	婦女問題的四大潮流		奚明
第9期	1922年11月26日	婦女參政運動（續） 英國福綏特女士著		屯民 譯
第9期	1922年11月26日	膏火書		誠吾
第10期	1922年12月6日	婦女運動的究竟目的何在？		高山
第10期	1922年12月6日	論第四階級的婦女運動質奚明先生		Y.D.
第10期	1922年12月6日	婦女參政運動（續） 英國福綏特女士著		屯民 譯
第10期	1922年12月6日	節育之文化的意義		雲
第10期	1922年12月6日	節育與軍國主義（“譯節育評論”十號）		海
第10期	1922年12月6日	我的訂婚的經過		慕誠
第11期	1922年12月16日	該替人類抱愧的事		高山
第11期	1922年12月16日	貞操之認識		朱錦江
第11期	1922年12月16日	婦女參政運動（續） 英國福綏特女士著		屯民 譯
第11期	1922年12月16日	伏爾斯東克拉夫脫略傳		克士
第11期	1922年12月16日	海外節育運動近訊		海
第11期	1922年12月16日	膏火書（續第九期）		誠吾
第11期	1922年12月16日	雜譚	太新了	始
第11期	1922年12月16日	雜譚	有弊	始
第11期	1922年12月16日	徵求投稿		*
第12期	1922年12月26日	答YD 先生		奚明
第12期	1922年12月26日	我國婦女與經濟獨立		張友仁
第12期	1922年12月26日	婦女與自尊 日本與謝野晶子著		梓生
第12期	1922年12月26日	婦女參政運動（續） 英國福綏特女士著		屯民 譯

第12期	1922年12月26日	節育與戰爭 英國生育節制聯合會長特來沙博士著		海 譯
第12期	1922年12月26日	雜譚	覺悟的女子	安
第12期	1922年12月26日	雜譚	學問	安
第12期	1922年12月26日	雜譚	政治的知識	安
第12期	1922年12月26日	雜譚	娼妓	安
第12期	1922年12月26日	雜譚	高唱	安
第12期	1922年12月26日	雜譚	戀愛	安
第12期	1922年12月26日	徵求投稿		*
第13期	1923年1月6日	社評		屯民
第13期	1923年1月6日	貢獻給做父母的		郢
第13期	1923年1月6日	結婚之目的 英國哈佛洛克愛理士著		海 譯
第13期	1923年1月6日	婦女須知 美國山額夫人著		白 譯
第13期	1923年1月6日	通信		*
第13期	1923年1月6日	徵求投稿		*
第14期	1923年1月16日	社評	前回曾友許多江蘇議員	高山
第14期	1923年1月16日	社評	機械式的結婚	高山 玉深
第14期	1923年1月16日	吾之婚姻痛史		喆
第14期	1923年1月16日	節育與戰爭（續上期） 英國生育節制聯合會長特來沙博士著		海 譯
第14期	1923年1月16日	婦女須知 第二章 女子時代 美國山額夫人著		白 譯
第14期	1923年1月16日	「但是」（節育雜問）		*
第15期	1923年1月26日	松江景賢女中校的概況		梅生
第15期	1923年1月26日	吾之婚姻痛史（續）		喆
第15期	1923年1月26日	婦女須知 第二章 女子時代（續前期） 美國山額夫人原著		白 譯
第15期	1923年1月26日	「但是」 節育雜問（續上期）		鏡 譯
第16期	1923年2月6日	社評	直隸女權運動會	居易
第16期	1923年2月6日	社評	清華學校的停派女生	居易
第16期	1923年2月6日	社評	我們見了	高山
第16期	1923年2月6日	羅素夫人的中國女權運動觀		Y.D.
第16期	1923年2月6日	工讀主義者羅敦健女士傳（原名胞妹敦健的一生）		羅敦偉
第16期	1923年2月6日	吾之婚姻痛史（續）		喆
第17期	1923年2月26日	父母的責任		白水
第17期	1923年2月26日	日本的婦女運動 日本山川菊榮著		高山 譯
第17期	1923年2月26日	婦女須知 第二章 女子時代（續前期） 美國山額夫人原著		白 譯
第18期	1923年3月6日	自由離婚和逃婚		德微
第18期	1923年3月6日	生產限制及兒童公育問題 江亢虎講 高維昌記		江亢虎
第18期	1923年3月6日	婦女參政運動（續） 英國福綏特女士著		屯民 譯

第18期	1923年 3 月 6 日	我與未婚妻相識的經過	徐精昌
第18期	1923年 3 月 6 日	工讀主義者羅敦健女士傳 (原名胞妹敦健的一生)	羅敦偉
第19期	1923年 3 月16日	印度婦女可以代表東洋文明麼	玉深
第19期	1923年 3 月16日	俄國革命家蘇維亞女士傳	克士
第19期	1923年 3 月16日	婦女參政運動 (續) 英國福綏特女士著	屯民 譯
第19期	1923年 3 月16日	無意中生的小孩子的悲劇 山額夫人著	泉 譯
第19期	1923年 3 月16日	節育雜問 (續前)	*
第19期	1923年 3 月16日	通訊欄 致中華節育研究社諸先生	鄒□□
第19期	1923年 3 月16日	通訊欄 致節育研究社諸女士, 先生	L.L
第20期	1923年 3 月26日	讀青年進步的家庭問題號下	開時
第20期	1923年 3 月26日	讀女鐸報	奚明
第20期	1923年 3 月26日	中國問題 英國濮蘭德對羅素德答辯	海 譯
第20期	1923年 3 月26日	婦女參政運動 (續) 英國福綏特女士著	屯民 譯
第20期	1923年 3 月26日	無意中生的小孩子的悲劇 山額夫人著	泉 譯
第20期	1923年 3 月26日	通訊蘭 致中華節育研究社諸先生大鑒	嚴□□
第20期	1923年 3 月26日	通訊蘭 頃閱貴社「現代婦女」刊物第七期	何□□
第20期	1923年 3 月26日	通訊蘭 節育研究社諸同志先生均鑒	□□
第21期	1923年 4 月 6 日	「常識」的非常識	慨士
第21期	1923年 4 月 6 日	社會主義與公妻	梅先
第21期	1923年 4 月 6 日	讀了二月號的婦女雜誌以後	M.L. 女士
第21期	1923年 4 月 6 日	婦女須知 第二章 女子時代 (續前期) 美國山額夫人原著	白 譯
第22期	1923年 4 月16日	民法原則婚姻須得本人同意	松三
第22期	1923年 4 月16日	美國女子參政運動成功後的一個考察	V.T.
第22期	1923年 4 月16日	日本婦女團體在議會中提出的請願	魯懿
第22期	1923年 4 月16日	英國生育節制會記略	*
第22期	1923年 4 月16日	通訊蘭 諸先生鈞鑒	賀□□
第22期	1923年 4 月16日	翻譯預告	T.L., Y.D.
第23期	1923年 4 月26日	評結婚式 廚川白村著	任白濤
第23期	1923年 4 月26日	日本婦女團體在議會中提出的請願 (續)	魯懿
第23期	1923年 4 月26日	讀了「我自己的婚姻史」的意見	李冰濤, 張國權
第23期	1923年 4 月26日	生育節制能改良人種嗎? Havelock Ellis著	泉 譯
第24期	1923年 5 月 6 日	推廣女子教育辦法	廬海珊
第24期	1923年 5 月 6 日	生育節制能改良人種嗎? (續) Havelock Ellis著	泉 譯
第24期	1923年 5 月 6 日	一個甘蹈苦海的女子	R
第25期	1923年 5 月 6 日	現代婦女的墮落和補救	查溯生
第25期	1923年 5 月 6 日	對於鄭振鐸君「我自己的婚姻史」的意見	張友鶴

第25期	1923年 5 月 6 日	一個甘踏苦海的女子（二）	R
第26期	1923年 5 月26日	父性之復興	奚明
第26期	1923年 5 月26日	譚仲達的婚姻問題	嵩山
第26期	1923年 5 月26日	生育節制能改良人種嗎？（再續） Havelock Ellis著	泉 譯
第26期	1923年 5 月26日	女子在婚姻上的苦痛和危險	蘭蔭女士
第26期	1923年 5 月26日	我與未婚妻相識的經過（續）	徐精昌
第26期	1923年 5 月26日	我的拒婚運動成功史	張肇基
第26期	1923年 5 月26日	介紹「醫事」（The Medical Review）	*
第27期	1923年 6 月 6 日	論薛吳的解約問題	嵩山
第27期	1923年 6 月 6 日	我對於鄭振鐸一類婚姻問題的意見	孫本文
第27期	1923年 6 月 6 日	看了「鄭振鐸君婚姻史的意見」之后	覺真
第28期	1923年 6 月16日	離婚與道德問題社會問題及其障礙	鄭振鐸
第28期	1923年 6 月16日	青年的專制思想	孟蓀
第28期	1923年 6 月16日	我的拒婚運動成功史（續）	張肇基
第28期	1923年 6 月16日	通訊 覺農先生：	鐵郎
第29期	1923年 6 月26日	離婚與道德問題社會問題及其障礙（續）	鄭振鐸
第29期	1923年 6 月26日	徵婚與自由戀愛	卞煥章
第29期	1923年 6 月26日	一個婚姻的慘劇	矛人
第29期	1923年 6 月26日	我的拒婚運動的成功史（續）	張肇基
第29期	1923年 6 月26日	來件 我們學校的現況及其進行之計劃	徐培德
第30期	1923年 7 月 6 日	片面的條文	李光業
第30期	1923年 7 月 6 日	第九次國際婦女參政同盟大會記略	魯懿
第30期	1923年 7 月 6 日	我的拒婚運動成功史（續）	張肇基
第30期	1923年 7 月 6 日	可羨哉國際女子選舉大會之中國代表	KF
第30期	1923年 7 月 6 日	反反常的感想	SM
第31期	1923年 7 月16日	「納妾限制」	嵩山
第31期	1923年 7 月16日	答薛伯華君	奚明
第31期	1923年 7 月16日	我的拒婚運動成功史（續）	張肇基
第31期	1923年 7 月16日	雜談 舊禮教的潛勢力	友鶴
第31期	1923年 7 月16日	雜談 女子和體育	友鶴
第32期	1923年 7 月26日	婦女參政運動（續） 英國福倭特女士原著	屯民 譯
第32期	1923年 7 月26日	女子活動的領域 日本與謝野晶子著	魯懿
第32期	1923年 7 月26日	「愛的創作」—綠洲之十六—（錄晨報）	作人
第32期	1923年 7 月26日	一個悲逼婚爾慘死的女子	秀峰
第32期	1923年 7 月26日	我的拒婚運動成功史（續）	張肇基
第32期	1923年 7 月26日	來件 天津女星第一補習學校簡章	女星社

第32期	1923年 7 月26日	來件	亡妹則英事略	凌則純
第32期	1923年 7 月26日	讀凌則純亡妹則英事略感言		李裕楨
第32期	1923年 7 月26日	通訊	記者諸先生：	秀峰
第32期	1923年 7 月26日	新刊介紹	婦女雜誌第九卷第八號	*
第32期	1923年 7 月26日	新刊介紹	學藝雜誌第五卷第二號要目	*
第33期	1923年 8 月 7 日	婦女運動的由來及其意義 日本本間久雄原著		玉深 譯
第33期	1923年 8 月 7 日	婦女參政運動（續） 英國福綏特女士原著		屯民 譯
第33期	1923年 8 月 7 日	三年前		張友鶴
第33期	1923年 8 月 7 日	候音		紹先女士
第33期	1923年 8 月 7 日	雨後的山中		*
第33期	1923年 8 月 7 日	感想	限制出嫁女子求學	R
第33期	1923年 8 月 7 日	感想	我對於劉廉彬女士的死	黃隱五女士
第33期	1923年 8 月 7 日	感想	找著好機會了	天素
第34期	1923年 8 月16日	本刊特別啓事		*
第34期	1923年 8 月16日	婦女運動的由來及其意義 日本本間久雄原著		玉深 譯
第34期	1923年 8 月16日	婦女參政運動（續） 英國福綏特女士原著		屯民 譯
第34期	1923年 8 月16日	感想	婦女問題須由婦女自己解決的	高山
第34期	1923年 8 月16日	傻子和偽君子所不相信的		泉
第34期	1923年 8 月16日	通訊欄	節育研究社同志 公鑒：	SWC生
第34期	1923年 8 月16日	婦女問題研究會特別啓事		*

*印は無署名

『現代婦女』（上海『時事新報』副刊） 執筆順目録					
執筆者名(英文)	執筆者(中文)	欄名	題 名	期號	刊行年月日
*	*	發刊詞		第1期	1922年9月6日
*	*	詩	憶李安娜	第3期	1922年9月26日
*	*	雜談	試驗結婚	第3期	1922年9月26日
*	*	雜談	生殖之神經	第3期	1922年9月26日
*	*	雜談	淫與盜	第3期	1922年9月26日
*	*	雜譚	戀愛與社交	第4期	1922年10月6日
*	*	雜譚	戀愛的訓練	第4期	1922年10月6日
*	*	附錄	北京產兒制限研究會宣言書	第7期	1922年11月6日
*	*	附錄	陽女子參政協進會宣言	第7期	1922年11月6日
*	*	介紹新刊		第7期	1922年11月6日
*	*	徵求投稿		第7期	1922年11月6日
*	*	徵求投稿		第11期	1922年12月16日
*	*	徵求投稿		第12期	1922年12月26日
*	*	通信		第13期	1923年1月6日
*	*	徵求投稿		第13期	1923年1月6日
*	*	「但是」(節育雜問)		第14期	1923年1月16日
*	*	節育雜問 (續前)		第19期	1923年3月16日
*	*	英國生育節制會記略		第22期	1923年4月16日
*	*	介紹「醫事」(The Medical Review)		第26期	1923年5月26日
*	*	新刊介紹	婦女雜誌第九卷第八號	第32期	1923年7月26日
*	*	新刊介紹	學藝雜誌第五卷第二號要目	第32期	1923年7月26日
*	*	雨後の山中		第33期	1923年8月7日
*	*	本刊特別啓事		第34期	1923年8月16日
*	*	婦女問題研究會特別啓事		第34期	1923年8月16日
an	安	雜譚	覺悟的女子	第12期	1922年12月26日
an	安	雜譚	學問	第12期	1922年12月26日
an	安	雜譚	政治的知識	第12期	1922年12月26日
an	安	雜譚	娼妓	第12期	1922年12月26日
an	安	雜譚	高唱	第12期	1922年12月26日
an	安	雜譚	戀愛	第12期	1922年12月26日
bai	白 譯	婦女須知	美國山額夫人著	第13期	1923年1月6日
bai	白 譯	婦女須知 第二章 女子時代	美國山額夫人著	第14期	1923年1月16日
bai	白 譯	婦女須知 第二章 女子時代(續前期)	美國山額夫人原著	第15期	1923年1月26日
bai	白 譯	婦女須知 第二章 女子時代(續前期)	美國山額夫人原著	第17期	1923年2月26日
bai	白 譯	婦女須知 第二章 女子時代(續前期)	美國山額夫人原著	第21期	1923年4月6日
baiben	白本	關於節制生育的四個問答		第3期	1922年9月26日
baiben	白本 譯	日人對於生育節制的見解	日本石本男爵夫人著	第6期	1922年10月26日

baiben	白本 譯	日人對於生育節制的見解(續前) 日本石本男爵夫人著		第7期	1922年11月6日
baishui	白水	父母的責任		第17期	1923年2月26日
bianhuanzhang	卞煥章	徵婚與自由戀愛		第29期	1923年6月26日
chasusheng	查溯生	現代婦女的墮落和補救		第25期	1923年5月16日
chengwu	誠吾	膏火書		第9期	1922年11月26日
chengwu	誠吾	膏火書(續第九期)		第11期	1922年12月16日
dezheng	德徵	自由離婚和逃婚		第18期	1923年3月6日
fengzi	鳳子	送敦祐赴北京		第6期	1922年10月26日
gaoshan	高山	婦女參政運動的重要		第3期	1922年9月26日
gaoshan	高山	二重道德的免除難		第6期	1922年10月26日
gaoshan	高山	婦女運動的究竟目的何在?		第10期	1922年12月6日
gaoshan	高山	該替人類抱愧的事		第11期	1922年12月16日
gaoshan	高山	社評	前回曾友許多江蘇議員	第14期	1923年1月16日
gaoshan	高山	社評	我們見了	第16期	1923年2月6日
gaoshan	高山	感想	婦女問題須由婦女自己解決的	第34期	1923年8月16日
gaoshan	高山 譯	日本的婦女運動 日本山川菊榮著		第17期	1923年2月26日
gaoshan	高山	社評	機械式的結婚	第14期	1923年1月16日
hai	海	節育與軍國主義(“譯節育評論”十號)		第10期	1922年12月6日
hai	海	海外節育運動近訊		第11期	1922年12月16日
hai	海 譯	一夫一婦制必要的背景(譯美國Birthcontrol Review) 胡克夫人著		第3期	1922年9月26日
hai	海 譯	矯偽與節育 Willam Almonwolt著		第5期	1922年10月16日
hai	海 譯	節育與戰爭 英國生育節制聯合會長特來沙博士著		第12期	1922年12月26日
hai	海 譯	結婚之目的 英國哈佛洛克愛理士著		第13期	1923年1月6日
hai	海 譯	節育與戰爭(續上期) 英國生育節制聯合會長特來沙博士著		第14期	1923年1月16日
hai	海 譯	中國問題 英國濮蘭德對羅素德答辯		第20期	1923年3月26日
haicheng	海澄	山額夫人之旅華觀察談		第1期	1922年9月6日
heweiwei	何□□	通訊蘭	頃閱貴社「現代婦女」刊物第七期	第20期	1923年3月26日
heweiwei	賀□□	通訊蘭	諸先生鈞鑒	第22期	1923年4月16日
huachao	華超	我對於扶蒼君結婚之感想		第2期	1922年9月16日
huangyinwunvshi	黃隱五女士	感想	我對於劉廉彬女士的死	第33期	1923年8月7日
jiangkanghu	江亢虎	生產限制及兒童公育問題 江亢虎講 高維昌記		第18期	1923年3月6日
jiansan	劍三	兩性教育的先決問題		第8期	1922年11月16日
jiansan	劍三	兩性教育的先決問題(續)		第9期	1922年11月26日
jieren	孑人	一個婚姻的慘劇		第29期	1923年6月26日
jing	鏡 譯	「但是」 節育雜問 (續上期)		第15期	1923年1月26日
jizhe	記者	中華節育研究社簡章		第6期	1922年10月26日
juezen	覺真	看了「鄭振鐸君婚姻史的意見」之后		第27期	1923年6月6日
juyi	居易	社評	直隸女權運動會	第16期	1923年2月6日
juyi	居易	社評	清華學校的停派女生	第16期	1923年2月6日
kaishi	開時	讀青年進步的家庭問題號下		第20期	1923年3月26日

kaishi	慨士	「常識」の非常識		第21期	1923年4月6日
keshi	克士	伏爾斯東克拉夫脫略傳		第11期	1922年12月16日
keshi	克士	俄國革命家蘇維亞女士傳		第19期	1923年3月16日
KF	KF	可羨哉國際女子選舉大會之中國代表		第30期	1923年7月6日
lanyinnvshi	蘭蔭女士	女子在婚姻上的苦痛和危險		第26期	1923年5月26日
libingyi	李冰漪	讀了「我自己的婚姻史」的意見		第23期	1923年4月26日
liguangye	李光業	片面的條文		第30期	1923年7月6日
lingzechun	凌則純	來件	亡妹則英事略	第32期	1923年7月26日
liyuzhen	李裕楨	讀凌則純亡妹則英事略感言		第32期	1923年7月26日
L.L	L.L	通訊欄	致節育研究社諸女士，先生	第19期	1923年3月16日
luhaishan	盧海珊	推廣女子教育辦法		第24期	1923年5月6日
luodunwei	羅敦偉	工讀主義者羅敦健女士傳（原名胞妹敦健的一生）		第16期	1923年2月6日
luodunwei	羅敦偉	工讀主義者羅敦健女士傳（原名胞妹敦健的一生）		第18期	1923年3月6日
luyi	魯懿	日本婦女團體在議會中提出的請願		第22期	1923年4月16日
luyi	魯懿	日本婦女團體在議會中提出的請願（續）		第23期	1923年4月26日
luyi	魯懿	第九次國際婦女參政同盟大會記略		第30期	1923年7月6日
luyi	魯懿	女子活動的領域 日本與謝野晶子著		第32期	1923年7月26日
M.L.nvshi	M.L. 女士	讀了二月號的婦女雜誌以後		第21期	1923年4月6日
meisheng	梅生	松江景賢女中校的概況		第15期	1923年1月26日
meixian	梅先	社會主義與公妻		第21期	1923年4月6日
mengsun	孟蓀	青年的專制思想		第28期	1923年6月16日
mucheng	慕誠	我的訂婚的經過		第10期	1922年12月6日
nvxingshe	女星社	來件	天津女星第一補習學校簡章	第32期	1923年7月26日
qu	渠	雜譚		第6期	1922年10月26日
quan	泉	產兒制限		第1期	1922年9月6日
quan	泉	關於愛的七個發問（譯自Peo san magazine）		第2期	1922年9月16日
quan	泉	生計艱難的原因		第4期	1922年10月6日
quan	泉 譯	無意中生的小孩子的悲劇 山額夫人著		第19期	1923年3月16日
quan	泉 譯	無意中生的小孩子的悲劇 山額夫人著		第20期	1923年3月26日
quan	泉 譯	生育節制能改良人種嗎？ Havelock Ellis著		第23期	1923年4月26日
quan	泉 譯	生育節制能改良人種嗎？（續） Havelock Ellis著		第24期	1923年5月6日
quan	泉 譯	生育節制能改良人種嗎？（續） Havelock Ellis著		第26期	1923年5月26日
quan	泉	傻子和偽君子所不相信的		第34期	1923年8月16日
quzhi	渠之	回想		第2期	1922年9月16日
quzhi	渠之	一個小小的統計		第4期	1922年10月6日
R	R	一個甘蹈苦海的女子		第24期	1923年5月6日
R	R	一個甘蹈苦海的女子（二）		第25期	1923年5月16日
R	R	感想	限制出嫁女子求學	第33期	1923年8月7日
renbaitao	任白濤	評結婚式 廚川白村著		第23期	1923年4月26日
selu	瑟廬	新良妻賢母主義 為妻的自由和為母的自由		第1期	1922年9月6日

shaoxiannvshi	紹先女士	候音		第33期	1923年 8 月 7 日
shi	始	雜談	拳匪思想	第 1 期	1922年 9 月 6 日
shi	始	雜談	“禮文昭著之時”	第 1 期	1922年 9 月 6 日
shi	始	雜談	七去都是女子的“罪”嗎？	第 1 期	1922年 9 月 6 日
shi	始	雜談	“庶人不能有妾”	第 1 期	1922年 9 月 6 日
shi	始	雜談	“納徵之禮”	第 1 期	1922年 9 月 6 日
shi	始	雜譚	片面貞操	第 4 期	1922年10月 6 日
shi	始	雜譚	社交的意義	第 4 期	1922年10月 6 日
shi	始	雜談	男女之嫌	第 5 期	1922年10月16日
shi	始	雜談	遠嫌與亂婚	第 5 期	1922年10月16日
shi	始	雜談	貞女	第 7 期	1922年11月 6 日
shi	始	雜談	淫亂	第 7 期	1922年11月 6 日
shi	始	雜談	自由婚姻	第 7 期	1922年11月 6 日
shi	始	雜談	古訓	第 7 期	1922年11月 6 日
shi	始	雜譚	太新了	第11期	1922年12月16日
shi	始	雜譚	有弊	第11期	1922年12月16日
SM	SM	反反常的感想		第30期	1923年 7 月 6 日
songsan	松三	民法原則婚姻須得本人同意		第22期	1923年 4 月16日
songshan	嵩山	譚仲達的婚姻問題		第26期	1923年 5 月26日
songshan	嵩山	論薛吳的解約問題		第27期	1923年 6 月 6 日
songshan	嵩山	「納妾限制」		第31期	1923年 7 月16日
sunbenwen	孫本文	我對於鄭振鐸一類婚姻問題的的意見		第27期	1923年 6 月 6 日
susheng	溯生	讀過“壬戌周刊”以後		第 8 期	1922年11月16日
suyi	肅宜	社評二		第 7 期	1922年11月 6 日
SWC	SWC生	通訊欄	節育研究社同志 公鑒：	第34期	1923年 8 月16日
T.L. Y.D.	T.L. Y.D.	翻譯預告		第22期	1923年 4 月16日
T.W	T.W	浪漫談（1-16）		第 5 期	1922年10月16日
T.W	T.W	浪漫談（續）		第 6 期	1922年10月26日
tiansu	天素	感想	找著好機會了	第33期	1923年 8 月 7 日
tielang	鐵郎	通訊	覺農先生：	第28期	1923年 6 月16日
tunmin	屯民 譯	婦女參政運動 英國福綏特女士著		第 3 期	1922年 9 月26日
tunmin	屯民 譯	婦女參政運動 英國福綏特女士著		第 4 期	1922年10月 6 日
tunmin	屯民 譯	婦女參政運動 英國福綏特女士著		第 5 期	1922年10月16日
tunmin	屯民 譯	婦女參政運動（續） 英國福綏特女士著		第 6 期	1922年10月26日
tunmin	屯民 譯	婦女參政運動（續） 英國福綏特女士著		第 7 期	1922年11月 6 日
tunmin	屯民 譯	婦女參政運動（續） 英國福綏特女士著		第 9 期	1922年11月26日
tunmin	屯民 譯	婦女參政運動（續） 英國福綏特女士著		第10期	1922年12月 6 日
tunmin	屯民 譯	婦女參政運動（續） 英國福綏特女士著		第11期	1922年12月16日
tunmin	屯民 譯	婦女參政運動（續） 英國福綏特女士著		第12期	1922年12月26日
tunmin	屯民	社評		第13期	1923年 1 月 6 日

tunmin	屯民 譯	婦女參政運動（續）	英國福綏特女士著	第18期	1923年 3 月 6 日
tunmin	屯民 譯	婦女參政運動（續）	英國福綏特女士著	第19期	1923年 3 月16日
tunmin	屯民 譯	婦女參政運動（續）	英國福綏特女士著	第20期	1923年 3 月26日
tunmin	屯民 譯	婦女參政運動（續）	英國福綏特女士原著	第32期	1923年 7 月26日
tunmin	屯民 譯	婦女參政運動（續）	英國福綏特女士原著	第33期	1923年 8 月 7 日
tunmin	屯民 譯	婦女參政運動（續）	英國福綏特女士原著	第34期	1923年 8 月16日
V.T	V.T	結婚の三種目的	日本與謝野晶子著	第 8 期	1922年11月16日
V.T.	V.T.	美國女子參政運動成功後的一個考察		第22期	1923年 4 月16日
wangdanxuan nvshi	王丹軒女士	我的思想變遷史		第 4 期	1922年10月 6 日
weiwei	□□	通訊蘭	節育研究社諸同志先生均鑒	第20期	1923年 3 月26日
wenzhou	文宙	兩首悼亡詩的觀察		第 3 期	1922年 9 月26日
wu juenong	吳覺農	農村的婦人問題		第 2 期	1922年 9 月16日
ximing	奚明	婦女問題的四大潮流		第 9 期	1922年11月26日
ximing	奚明	答Y.D. 先生		第12期	1922年12月26日
ximing	奚明	讀女鐸報		第20期	1923年 3 月26日
ximing	奚明	父性之復興		第26期	1923年 5 月26日
ximing	奚明	答薛伯華君		第31期	1923年 7 月16日
xiufeng	秀峰	一個悲逼婚爾慘死的女子		第32期	1923年 7 月26日
xiufeng	秀峰	通訊	記者諸先生：	第32期	1923年 7 月26日
xujingchang	徐精昌	我與未婚妻相識的經過		第18期	1923年 3 月 6 日
xujingchang	徐精昌	我與未婚妻相識的經過（續）		第26期	1923年 5 月26日
xupeide	徐培德	來件	我們學校的現況及其進行之計劃	第29期	1923年 6 月26日
yanweiwei	嚴□□	通訊蘭	致中華節育研究社諸先生大鑒	第20期	1923年 3 月26日
Y.D	Y.D	告“女性日本人”	記者花園女士	第 8 期	1922年11月16日
Y.D.	Y.D	羅素夫人的中國女權運動觀		第16期	1923年 2 月 6 日
YD	Y.D	論第四階級的婦女運動質奚明先生		第10期	1922年12月 6 日
yi	易	對於工兒院創辦諸君的貢獻		第 9 期	1922年11月26日
ying	郢	我的希望		第 1 期	1922年 9 月 6 日
ying	郢	節育的本義		第 2 期	1922年 9 月16日
ying	郢	父母的責任		第 4 期	1922年10月 6 日
ying	郢	社評	（一則）	第 6 期	1922年10月26日
ying	郢	貢獻給做父母的		第13期	1923年 1 月 6 日
youhe	友鶴	雜談	舊禮教的潛勢力	第31期	1923年 7 月16日
youhe	友鶴	雜談	女子和體育	第31期	1923年 7 月16日
youluan	友鸞	雜譚	“三投”	第 2 期	1922年 9 月16日
youluan	友鸞	雜譚	同情心	第 2 期	1922年 9 月16日
youluan	友鸞	雜譚	“女士”和“她”	第 2 期	1922年 9 月16日
youluan	友鸞	雜譚	“為甚麼不開男禁”？	第 2 期	1922年 9 月16日
youluan	友鸞	雜譚	“非男子之福也！”	第 2 期	1922年 9 月16日
youluan	友鸞	雜譚	“社交”和“戀愛”	第 2 期	1922年 9 月16日

yuanzhen	元穰	遣悲懷三首	第3期	1922年9月26日
yun	雲	婦女職工與生育	第5期	1922年10月16日
yun	雲	節育之文化的意義	第10期	1922年12月6日
yushen	玉深	社評 席上珍的自殺	第2期	1922年9月16日
yushen	玉深	社評 勞動立法運動	第2期	1922年9月16日
yushen	玉深	社評 女子工業進德會	第3期	1922年9月26日
yushen	玉深	社評 上海一部分的婦女，已在籌備組織女權運動同盟會的支部了	第3期	1922年9月26日
yushen	玉深	社評 九月二十七日“時報”北京電傳教部編訂男女同校規則，	第4期	1922年10月6日
yushen	玉深	社評 基督教婦女節制會的籌備撫育工兒院	第4期	1922年10月6日
yushen	玉深	社評 紹屬旅滬同鄉會的拒絕女子入會	第4期	1922年10月6日
yushen	玉深	社評 (二則)	第6期	1922年10月26日
yushen	玉深	社評一	第7期	1922年11月6日
yushen	玉深	女子參政團體與羅案	第9期	1922年11月26日
yushen	玉深	印度婦女可以代表東洋文明麼	第19期	1923年3月16日
yushen	玉深 譯	婦女運動的由來及其意義 日本本間久雄原著	第33期	1923年8月7日
yushen	玉深 譯	婦女運動的由來及其意義 日本本間久雄原著	第34期	1923年8月16日
yushen	玉深	社評 機械式的結婚	第14期	1923年1月16日
zhangguoquan	張國權	讀了「我自己的婚姻史」的意見	第23期	1923年4月26日
zhangxichen	章錫琛	女權運動的基礎 (在上海女權運動同盟會的演說)	第7期	1922年11月6日
zhangyouhe	張友鶴	對於鄭振璠君「我自己的婚姻史」的意見	第25期	1923年5月16日
zhangyouhe	張友鶴	三年前	第33期	1923年8月7日
zhangyouren	張友仁	我國婦女與經濟獨立	第12期	1922年12月26日
zhangzhaoji	張肇基	我的拒婚運動成功史	第26期	1923年5月26日
zhangzhaoji	張肇基	我的拒婚運動成功史 (續)	第28期	1923年6月16日
zhangzhaoji	張肇基	我的拒婚運動成功史 (續)	第29期	1923年6月26日
zhangzhaoji	張肇基	我的拒婚運動成功史 (續)	第30期	1923年7月6日
zhangzhaoji	張肇基	我的拒婚運動成功史 (續)	第31期	1923年7月16日
zhangzhaoji	張肇基	我的拒婚運動成功史 (續)	第32期	1923年7月26日
zhe	喆	吾之婚姻痛史	第14期	1923年1月16日
zhe	喆	吾之婚姻痛史 (續)	第15期	1923年1月26日
zhe	喆	吾之婚姻痛史 (續)	第16期	1923年2月6日
zhengzhenxun	鄭振璠	離婚與道德問題社會問題及其障礙	第28期	1923年6月16日
zhengzhenxun	鄭振璠	離婚與道德問題社會問題及其障礙 (續)	第29期	1923年6月26日
zhesheng	喆生	俄國革命祖母勃萊希柯夫斯基傳	第8期	1922年11月16日
zhoulianglingxian	周梁令嫻	婦女運動問題	第5期	1922年10月16日
zhujinjiang	朱錦江	貞操之認識	第11期	1922年12月16日
zhuoni	拙妮	忤逆的娼妓與孝順的娼妓	第5期	1922年10月16日
zisheng	梓生	婦女與自尊 日本與謝野晶子著	第12期	1922年12月26日
zouweiwei	鄒□□	通訊欄 致中華節育研究社諸先生	第19期	1923年3月16日
zuoren	作人	「愛的創作」—綠洲之十六— (錄晨報)	第32期	1923年7月26日